

分野(1)

小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び
事業内容の改善方法に関する調査研究

研究課題名：気管支喘息のテーラーメイド的予知に基づく発症予防法と
QOL調査票を導入した独創的評価法の確立

調査研究代表者氏名：近藤直実

評価コメント

- ・少しアカデミックであるが、大変興味深い研究であり今後の発展に大きく期待したい。ぜん息発症の予知、予防が可能となるような成果を期待している。
- ・この成果を治療効果の判定応用へと進展させることが期待できる。
- ・気管支ぜん息の新しい予知予防法として、可能性を拡げた研究として評価する。
- ・独創的なプログラムの着実な進捗が見られる。
- ・遺伝子多型によるテーラーメイドは重要なテーマであるが、1才6ヶ月児の採血の問題、費用の点からより効果的な方式を検討して欲しい。
- ・遺伝子解析により個々に応じた危険因子を強調し、発症予防や治療介入を効果的に実施する試みは、今後の予防治療に大いに期待される。1歳6ヶ月時の反復性喘鳴児の3歳時点での評価に興味もたれるが、3歳時点の調査票でぜん息発症が確認できる工夫を要する。
- ・3歳で得られた免疫／遺伝データとQOLの突合せが可能になればさらに良いと思われる。
- ・研究は完成に近づいているが、さらに遺伝子解析の症例数が増加し、感染のみならず他の危険因子が発見され、さらにQOL票を用いての発症予防に結び付けられることを望みたい。また、これらの貴重なデータの論文化が望まれる。それにより、ソフト3事業のうちの健康診査事業に結び付けられることが期待される。
- ・遺伝子多型の研究は労力やコストのかかる研究であり、現時点で優れたぜん息発症の予知をうるほどの遺伝子多型を見つけることに多くの期待をかけようとは思わない。しかし、重要な有意義なテーマなので根気よく研究を続けて欲しい。